

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成22年4月調査結果

現在の景気の現状判断は、デフレや円高などの影響がさらに薄れ、先月に比べ8.9%ポイント上げてDI値が35.1%ポイントと、厳しい状況ながら改善傾向が強まる判断となっています。特に、サービス関連で3.5%ポイント上げて25.0%ポイントと非常に厳しい状況から脱する兆しが見える判断となっています。

また、雇用関連でも9.6%ポイント上げて42.9%ポイントとやや厳しい状況まで改善した現状判断となっています。

次に1年前と比べた場合は、先月と比べ15.3%ポイントと大幅に改善し、DI値49.3%ポイントとほぼ回復を示す現状判断となり、内訳では小売関連で12.9%ポイント、飲食観光関連で16.0%ポイント、サービス関連で27.1%ポイントの大幅な改善となり、雇用関連では、1.8%ポイント改善の64.3%ポイントと引続き回復を示す現状判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合でも、先月より9.3%ポイント改善の53.4%ポイントと、回復を示す現状判断となっていますが、サービス関連は、ほぼ横ばいで0.7%ポイント悪化の35.0%ポイントと依然厳しい現状判断となっています。

さらに、雇用関連はほぼ横ばいの57.2%ポイントで引続き回復を示す判断となっています。

3～6ヶ月先の景気の先行き判断は、先月に引続き2.2%ポイント改善を予想し48.7%ポイントとなり、さらに、サービス関連も含め全ての関連で40.0%ポイントを超え、景気回復の足音が聞こえる予想となっています。

雇用関連も、60.7%ポイントと引続き回復傾向を見込む予想となっています。

◎全体的には、消費の低迷や低価格志向はあるものの一部に節約疲れの傾向もあり、現状判断は、ほぼ回復傾向を示し、先行きについても回復傾向を示す見込みとなっています。

また、ギリシャの財政危機の及ぼす影響に注視する必要があるものと思われます。

雇用関連は、回復傾向にあります。新卒者の就職の先行きに不安があると思われます。

平成22年5月19日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は5月14日まで)

○有効回答率

82.2% 有効回答客体 37名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4			⇒ ほんの少し景気が後退している	

となります。

調査の結果

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、デフレや円高などの影響がさらに薄れ、先月に比べ8.9%ポイント上げてD I値が35.1%ポイントと、厳しい状況ながら改善傾向が強まる判断となっています。

内訳では、家計動向関連で小売関連が10.8%ポイント改善し34.4%ポイント、飲食観光関連で6.9%ポイント改善し36.1%ポイントと厳しい状況ながら改善し、サービス関連でも3.5%ポイント改善して25.0%ポイントと非常に厳しい状況から脱する兆しの見える現状判断となっています。

また、雇用関連では、先月から9.6%ポイントと上げて42.9%ポイントと、やや厳しい状況まで改善した現状判断となっています。

表1 4月構成比

	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	16.2	24.3	37.9	18.9	2.7	35.1
家計動向関連	0.0	16.7	20.0	36.7	23.3	3.3	33.4
小売関連	0.0	18.8	18.8	31.2	25.0	6.2	34.4
飲食観光関連	0.0	22.2	11.1	55.6	11.1	0.0	36.1
サービス関連	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	0.0	25.0
雇用関連	0.0	14.3	42.8	42.9	0.0	0.0	42.9

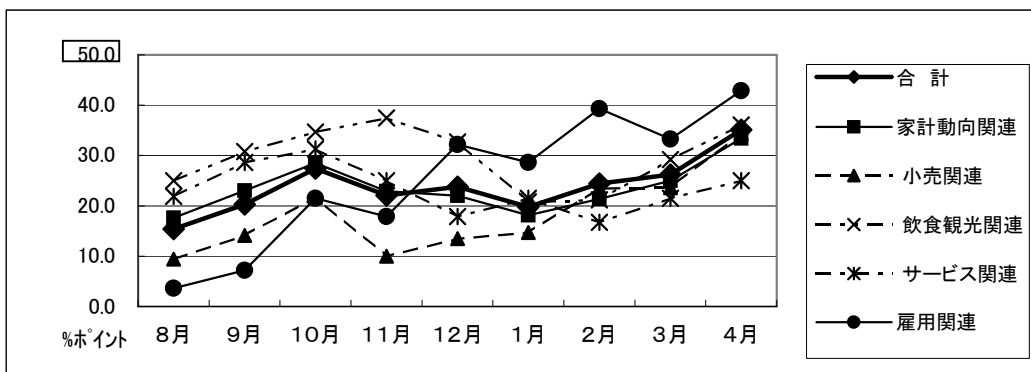
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2009	1 1	2.4	11.9	2.4	38.1	45.2	0.0	22.1
	1 2	0.0	2.5	22.5	37.5	35.0	2.5	23.8
2010	1	0.0	2.3	20.9	30.3	46.5	0.0	19.8
	2	0.0	11.9	16.7	28.6	42.8	0.0	24.4
	3	0.0	7.1	19.1	45.2	28.6	0.0	26.2
	4	0.0	16.2	24.3	37.9	18.9	2.7	35.1
(前月差)		(0.0)	(9.1)	(5.2)	(-7.3)	(-9.7)	(2.7)	(8.9)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年		2010年				(前月差)
	1 1月	1 2月	1月	2月	3月	4月	
合計	22.1	23.8	19.8	24.4	26.2	35.1	(8.9)
家計動向関連	22.9	22.0	18.1	21.4	25.0	33.4	(8.4)
小売関連	10.0	13.5	14.7	23.5	23.6	34.4	(10.8)
飲食観光関連	37.5	32.7	20.8	21.2	29.2	36.1	(6.9)
サービス関連	25.0	17.9	21.5	16.7	21.5	25.0	(3.5)
雇用関連	17.9	32.2	28.6	39.3	33.3	42.9	(9.6)



2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、先月と比べ15.3%ポイントと大幅に改善し、49.3%ポイントとほぼ回復を示す現状判断となっています。

内訳は、家計動向関連でそれぞれ大幅に改善し、小売関連で12.9%ポイント改善の45.3%ポイント、飲食観光関連で16.0%ポイント改善の47.2%ポイント、サービス関係で27.1%ポイント改善の45.0%ポイントと、やや厳しい状況まで改善した現状判断となっています。

また、雇用関連は、ほぼ横ばいの1.8%ポイント改善の64.3%ポイントと引続き回復を示す現状判断となっています。

表1 4月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	5.4	27.0	37.9	18.9	10.8	0.0	49.3
家計動向関連	6.7	20.0	36.7	23.3	13.3	0.0	45.9
小売関連	0.0	25.0	43.7	18.8	12.5	0.0	45.3
飲食観光関連	11.1	22.2	22.2	33.4	11.1	0.0	47.2
サービス関連	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	0.0	45.0
雇用関連	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	0.0	64.3

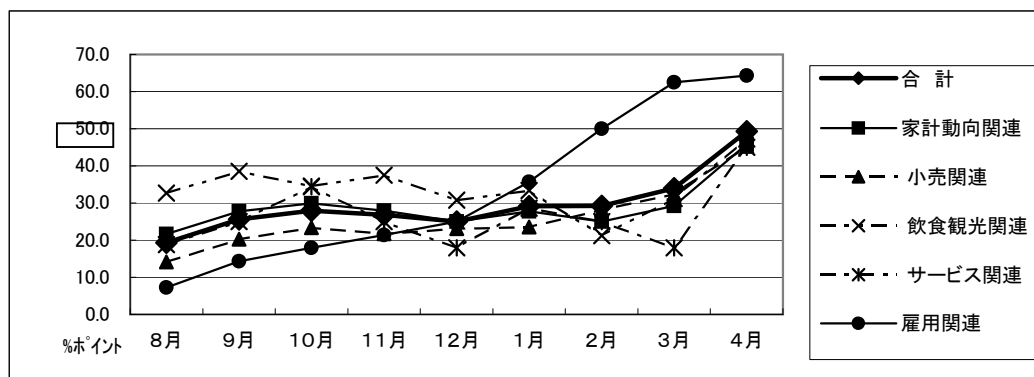
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2009	1 1	4.8	2.4	19.0	42.9	30.9	0.0	26.8
	1 2	0.0	2.5	25.0	42.5	30.0	0.0	25.0
2010	1	0.0	9.3	27.9	27.9	32.6	2.3	29.1
	2	0.0	21.4	19.1	14.3	45.2	0.0	29.2
	3	0.0	16.7	23.8	38.1	21.4	0.0	34.0
	4	5.4	27.0	37.9	18.9	10.8	0.0	49.3
	(前月差)	(5.4)	(10.3)	(14.1)	(-19.2)	(-10.6)	(0.0)	(15.3)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年		2010年				(前月差)
	1 1月	1 2月	1月	2月	3月	4月	
合計	26.8	25.0	29.1	29.2	34.0	49.3	(15.3)
家計動向関連	27.9	25.0	27.8	25.0	29.2	45.9	(16.7)
小売関連	21.7	23.1	23.5	28.2	32.4	45.3	(12.9)
飲食観光関連	37.5	30.8	33.4	21.2	31.2	47.2	(16.0)
サービス関連	25.0	17.9	28.6	25.0	17.9	45.0	(27.1)
雇用関連	21.4	25.0	35.7	50.0	62.5	64.3	(1.8)



2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、先月に比べ9.3%改善の53.4%と、回復傾向を示す現状判断となっています。

内訳は、飲食観光関連で16.0%改善し63.9%、小売関連で11.8%改善し51.6%と回復傾向を示していますが、サービス関連は0.7%悪化の35.0%と依然厳しい状況が続く現状判断となっています。

また、雇用関連は、先月と比べ1.1%の小幅な悪化で、57.2%と引き続き回復を示す現状判断となっています。

表1 4月構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
合計	2.7	27.0	54.1	13.5	2.7	0.0	53.4
家計動向関連	3.3	26.7	50.0	16.7	3.3	0.0	52.5
小売関連	0.0	25.0	56.2	18.8	0.0	0.0	51.6
飲食観光関連	11.1	33.3	55.6	0.0	0.0	0.0	63.9
サービス関連	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	35.0
雇用関連	0.0	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0	57.2

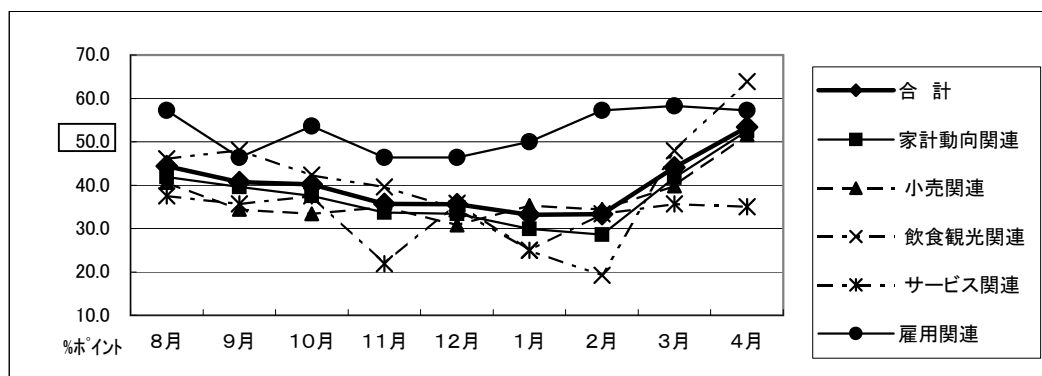
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	D I 値
2009	1 1	2.4	9.5	33.3	38.1	16.7	0.0	35.7
	1 2	0.0	15.0	35.0	27.5	22.5	0.0	35.6
2010	1	0.0	4.7	46.5	20.9	25.6	2.3	33.2
	2	0.0	9.5	40.5	23.8	26.2	0.0	33.3
	3	2.4	21.4	40.5	21.4	14.3	0.0	44.1
	4	2.7	27.0	54.1	13.5	2.7	0.0	53.4
(前月差)		(0.3)	(5.6)	(13.6)	(-7.9)	(-11.6)	(0.0)	(9.3)

表3 景気の現状判断D I 値

	2009年		2010年				(前月差)
	1 1月	1 2月	1月	2月	3月	4月	
合計	35.7	35.6	33.2	33.3	44.1	53.4	(9.3)
家計動向関連	33.7	33.4	29.9	28.6	41.7	52.5	(10.8)
小売関連	35.0	30.8	35.3	34.4	39.8	51.6	(11.8)
飲食観光関連	39.6	34.6	25.0	19.2	47.9	63.9	(16.0)
サービス関連	21.9	35.8	25.0	33.4	35.7	35.0	(-0.7)
雇用関連	46.4	46.4	50.0	57.2	58.3	57.2	(-1.1)



2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、安い物しか売れないなどから「単価の動き」が43.8%と高く、続いて、来客数の減少などから「来客数の動き」と「販売量の動き」が37.5%となっています。

また、その他では「節約疲れも少し」という回答があり、今後の消費拡大に希望が持てるものと思われます。

飲食観光関連でも、観光客などの利用者の増加から「来客数の動き」が88.9%と、突出して大きくなっています。

サービス業関連でも、お客様の減少などから「お客様の様子」が100%と回答者全てが、上げる理由となっています。

次に、雇用関連では、新規求人数の増加傾向から「求人数の動き」が57.1%と高く、ついで、企業の業績や採用の状況から「周辺企業の様子」が42.9%となっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	50.0	30.0	36.7	36.7	3.3	6.7
小売関連	37.5	37.5	43.8	31.3	0.0	12.5
飲食観光関連	88.9	33.3	33.3	11.1	0.0	0.0
サービス関連	20.0	0.0	20.0	100.0	20.0	0.0

	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	57.1	14.3	0.0	28.6	42.9	14.3

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、先月と比べ2.2%ポイント上げて、48.7%ポイントとさらに回復の兆しを見込む予想となっています。

内訳は、サービス関連が4.3%ポイント上げて40.0%ポイント、小売関連も1.0%ポイント上げて43.7%ポイントと、やや厳しい状況までの改善を予想し、飲食観光関連が52.8%ポイントと1.4%ポイント下げたものの、依然夏から秋への観光シーズンに期待し、回復傾向を見込む結果となっています。

また、雇用関連では、先月と比べ6.5%ポイント改善し、60.7%ポイントと引続き回復傾向を見込む予想となっています。

表1 4月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	0.0	27.0	48.7	16.2	8.1	0.0	48.7
家計動向関連	0.0	23.3	46.7	20.0	10.0	0.0	45.8
小売関連	0.0	18.7	50.0	18.8	12.5	0.0	43.7
飲食観光関連	0.0	33.3	44.5	22.2	0.0	0.0	52.8
サービス関連	0.0	20.0	40.0	20.0	20.0	0.0	40.0
雇用関連	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	60.7

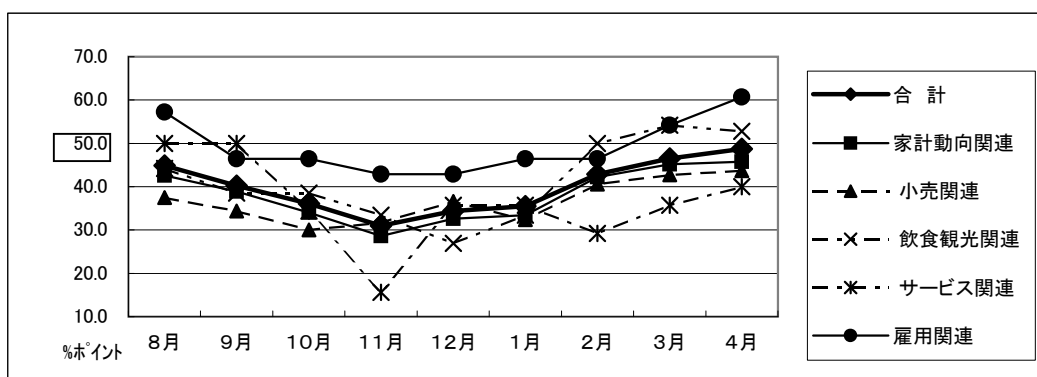
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2009	1 1	0.0	7.1	31.0	35.7	23.8	2.4	31.0
	1 2	0.0	7.5	37.5	35.0	17.5	2.5	34.4
2010	1	2.3	4.7	44.2	25.6	20.9	2.3	35.5
	2	2.4	7.1	52.4	26.2	7.1	4.8	42.9
	3	2.4	19.1	50.0	19.0	9.5	0.0	46.5
	4	0.0	27.0	48.7	16.2	8.1	0.0	48.7
	(前月差)	(-2.4)	(7.9)	(-1.3)	(-2.8)	(-1.4)	(0.0)	(2.2)

表3 景気の先行き判断D I 値

	2009年		2010年				(前月差)
	1 1月	1 2月	1月	2月	3月	4月	
合計	31.0	34.4	35.5	42.9	46.5	48.7	(2.2)
家計動向関連	28.6	32.6	33.4	42.2	45.2	45.8	(0.6)
小売関連	31.7	36.6	32.4	40.6	42.7	43.7	(1.0)
飲食観光関連	33.4	26.9	33.4	50.0	54.2	52.8	(-1.4)
サービス関連	15.6	35.7	35.7	29.2	35.7	40.0	(4.3)
雇用関連	42.9	42.9	46.4	46.4	54.2	60.7	(6.5)



景気の現状判断の理由

分野	景気判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
	3ヶ月前	1年前				
家 計 動 向 関 連	良くなっている	良くなっている	スナック	来客数と販売量の動き	・春の花見と新旧の役員会等々での利用者が多かったように思います。	
	やや良くなっている	良くなっている	金融機関	お客様の様子	・自動車、電機関連企業の受注に回復傾向がみられ、新たな設備投資の計画を練っている取引先がでてきた。	
	変わらない	やや良くなっている	商店街関係者	お客様の様子	・取扱件数の増加（回復）。	
			小売店	単価の動き、お客様の様子と節約疲れも少し	—	
			スーパー	単価の動き、お客様の様子とバロー恵那店の閉店	—	
			飲食店	来客数と単価の動き	・時期的に家族での動きが有り、単価の高い品が売れずじとなっている。	
			レストラン	来客数の動き	・新メニューの提供等の話題作りと広報活動がうまくいった。	
			小売店	販売量の動き	・少しですがお客さんが増えているような気がいたします。	
	悪くなっている	悪くなっている	観光案内所	来客数と販売量の動き	・市内の観光客の減少。	
	変わらない	やや良くなっている	小売店	販売量の動き	—	
			商店街関係者	来客数の動き	・大沼町通りを歩いている人が少ない。	
			小売店	販売量の動きとお客様の様子	—	
			小売店	来客数の動き	・購買意欲の低迷＝来客数の低迷ですね。	
			小売店	お客様の様子	・あい変わらず安い物しか売れない。	
			スーパー	販売量と単価の動き	—	
			自動車販売	来客数の動き	・少ない。	
			レストラン	来客数の動き	・来客数は、少しずつ上向いているものの、客単価は下降しており、依然として厳しい状況が続いている。	
			旅行代理店	単価の動き	・単価の安いツアーの申込みが多い。	
			タクシー運転手	お客様の様子	・相変わらず変わりなし。郊外や町外へのお客様の減少が目立つ。	
			やや悪くなっている	悪くなっている	スーパー	単価の動き
家電販売店					来客数、販売量、単価の動き	・単価ダウンと来客数の減少、3月のテレビ売上増加で、4月商品在庫がなく、1ヶ月以上受注まちになっていることもあり、売上減少がひどい。
旅館					来客数、販売量、単価の動きとお客様の様子	・花の季節で月平均にすれば来客数は多いが例年比では悪い。客単価が安価になって来ている。

		旅館	来客数の動き	—	
	悪くなっている	道の駅	お客様の様子	—	
やや悪くなっている	変わらない	金融機関	お客様の様子	・確定申告等が終わり、収益の減少を改めて言ってみえました。	
		小売店	来客数、販売量、単価の動き	—	
	美容室	お客様の様子	・来客数が少ない。		
	悪くなっている	商店街関係者	来客数の動き	・商店街が静かになってしまっている、去年は地域振興券があり、利用が結構あったから。	
		小売店	単価の動き	・特売品を中心の買物が増えていて、単価の安い品が増えている。	
悪くなっている	悪くなっている	タクシー運転手	来客数、単価の動きとお客様、	・顧客はもちろん観光客も減っている。	
雇用関連	やや良くなっている	労働金庫	自動車ローン申込増加	・昨年に比べ自動車ローンの申込が借増している。	
		自治体労働政策担当	周辺企業の様子	・市内企業へ訪問した際の話から。	
	変わらない	やや良くなっている	職業安定所	求人数の動き	・製造業における新規求人数が増加傾向にはある。
			労働相談所	求人数と求職者数の動き	・2月の新規求人倍率0.94(0.96)、有効求人倍率0.63(0.65)いずれも求人数の動きとしては下がっていること。
	変わらない	変わらない	学校就職担当	求人数の動き	・来年の採用計画が減少する企業と増加する企業が相半ばしている。
			学校就職担当	雇用形態、周辺企業の様子	・管内の企業の様子を伝え聞くところによると、一部を除き、業績は回復しているとは言い難い。
			人材派遣会社	求人数の動きと雇用形態、周辺企業の様子	・企業の採用は、絞り込みが相変わらず厳しく、この先も見通しがたたない。

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
	やや良くなる	小売店	—
		小売店	—
		スーパー	—
		飲食店	・先行きが見える様になれば、希望が持てる情報を流す。
		スナック	・それなりに仕事があるだけありがたいという、業者さんの話が聞かれるのは、「仕事がない、仕事がない」とばかり言っていた人達が大きな仕事はないが、途切れなく仕事があるようだと思えます。
		観光案内所	・8月下旬より栗きんとんの販売が始まり来館者、販売量共増える見込。
		金融機関	・一部の業態では受注の回復傾向が見られるが、全般的には今一步とといったところで、小売・建設業等は回復感に乏しい状況にある。
	変わらない	商店街関係者	・政局の経済に与える影響。
		小売店	—
		小売店	・希望的観測では良くなってほしいと思うが、現状は良くて現状維持とやってやっています。
		小売店	—
		小売店	・消費者の購買意欲の低下。
		スーパー	—
		スーパー	—
		自動車販売	・お客様の話しを聞いていると給料もいまだ上がらないし、仕事もひまな状況は続いている。なかなか車を買替える所までいかない。
道の駅		—	
レストラン		・良くなる要因がない。	
レストラン		—	
旅行代理店		・見通しは明るくないと思います。	
金融機関		・国内の政治が安定しないため。。	
タクシー運転手	・相変わらずこのままでは変わらない。自社でも手法を変えたのですが、あまり変わりません。町に人があまり出歩かないのが現状のようです。お客様らもあまり出歩かないと言っていました。		
やや悪くなる	商店街関係者	・お客様の高齢化⇒減少、商店街と言っても店が減少するばかりで、品物が揃わない。	
	小売店	—	
	家電販売店	・この4月の気温から夏の暑さを冷夏と報道もあり、今の売上げに対しても影響がでる。	

		旅館	・連休に期待するが、それ以降の来客には期待できず。
		旅館	－
		美容室	・景気の良くなる要素が見当たらない。
	悪くなる	商店街関係者	・購買意欲がない。
		小売店	・給料の減少が続いている。
		タクシー運転手	・企業の歓送迎会などの宴会が減って来ている。
雇 用 関 連	やや良くなる	労働金庫	・製造業の受注増加により雇用と収入が安定しつつあるように感じます。
		学校就職担当	－
		自治体労働政策担当	・製造業の回復が、サービス業に波及する。但し、エコカー減税の終わる9月には落ちるかもしれない。
	変わらない	職業安定所	・新規求人の増加は、一部業種にとどまっており、先行きは不透明。
		学校就職担当	・自動車関連企業が今一つ、回復基調になっていないように思えるので全体としてよくなるとは、予想できない。
		人材派遣会社	・一部改善の兆しがあるものの、中小企業は先行きについて、極めて慎重を期しており、特に雇用面ではその動きが顕著である
		労働相談所	・国並びに地方自治体の2010年度予算が成立したが景気が大きく変化できるような内容になっているとは思えない。